

23. 犬見古墳群

いぬみこふんぐん

所在地：大飯郡おおい町犬見

調査原因：県道赤礁崎公園線道路改良工事

調査期間：平成27年7月1日～8月31日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：240 m²

時代：古墳



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 犬見古墳群は大島半島の南東部、青戸の入江に面した丘陵裾部に位置し、横穴式石室を埋葬施設とする古墳時代後期の群集墳が存在するとされる遺跡です。しかし、ここにどれだけの数の古墳が存在するかなど、くわしいことは分かってないのが現状です。

今回、道路工事によって古墳群が立地する丘陵の一部が削平されることになり、事前に古墳の範囲確認踏査を行いました。その結果、工事予定地の周辺で8基(後で10基に増える)の横穴を確認し、そのうちの2基が工事範囲にかかり削平されてしまうことから、2基の横穴を中心に記録保存を目的とする発掘調査を実施しました。

遺構 1・2号横穴は、南東方向に開口し、両横穴は入口側で約3.1mの間隔で並びます。横穴の前面は平坦になり、両横穴の中心付近から各横穴の入口に向かって枝分かれする通路状の浅いくぼみが確認できました。

1号横穴は、平面形が長方形をなし、全長4.8m、幅は最大1.5mを測り、奥壁側幅1.3m、入口側幅1.4mを測ります。天井は大半崩れ落ち、奥壁側に天井部との境となる角が確認されたのみで、その高さは約1.5mを測ります。玄室(横穴の奥側にある遺体を埋葬する空間)と羨道(通路)側との境目は確認できませんでした。

2号横穴は、平面形はおおむね長方形に近いのですが、奥壁側から見て左側の壁がやや膨らみ、玄室と羨道(通路)側の境目の可能性のある段が確認できました。全長は6.9mを測り、その段を境に分けると、玄室長2.6m、羨道(通路)長が4.3mとなります。幅は奥壁側1.5m、玄室の最大1.8m、玄室・羨道(通路)境1.55m、入口側1.6mを測ります。天井部は奥壁から見て右側の壁が約3.5m崩れずに遺存し、天井の高さは1.5～1.7mを測ります。

1・2号横穴とも、羨道(通路)側の両壁には浅い柱穴が並び、近代以後の鍬・鉄杭が散乱しており、近代以後に、横穴を再利用する際に、羨道(通路)側の狭い部分を削って広げ、天井が崩れないように木柱等で固定したと考えられます。

遺物 近代以後の陶磁器の椀や皿が横穴の床面に散乱して見られましたが、古墳時代の遺物は、調査区全体で発見できませんでした。

まとめ 今回調査した2基の横穴は、古墳時代の土器や副葬品も残っていませんでした。ただ、2号横穴の玄室部の平面形は原形を留めている可能性があります。(榎部正典)



写真1 1号横穴（南東から）



写真2 2号横穴（南東から）

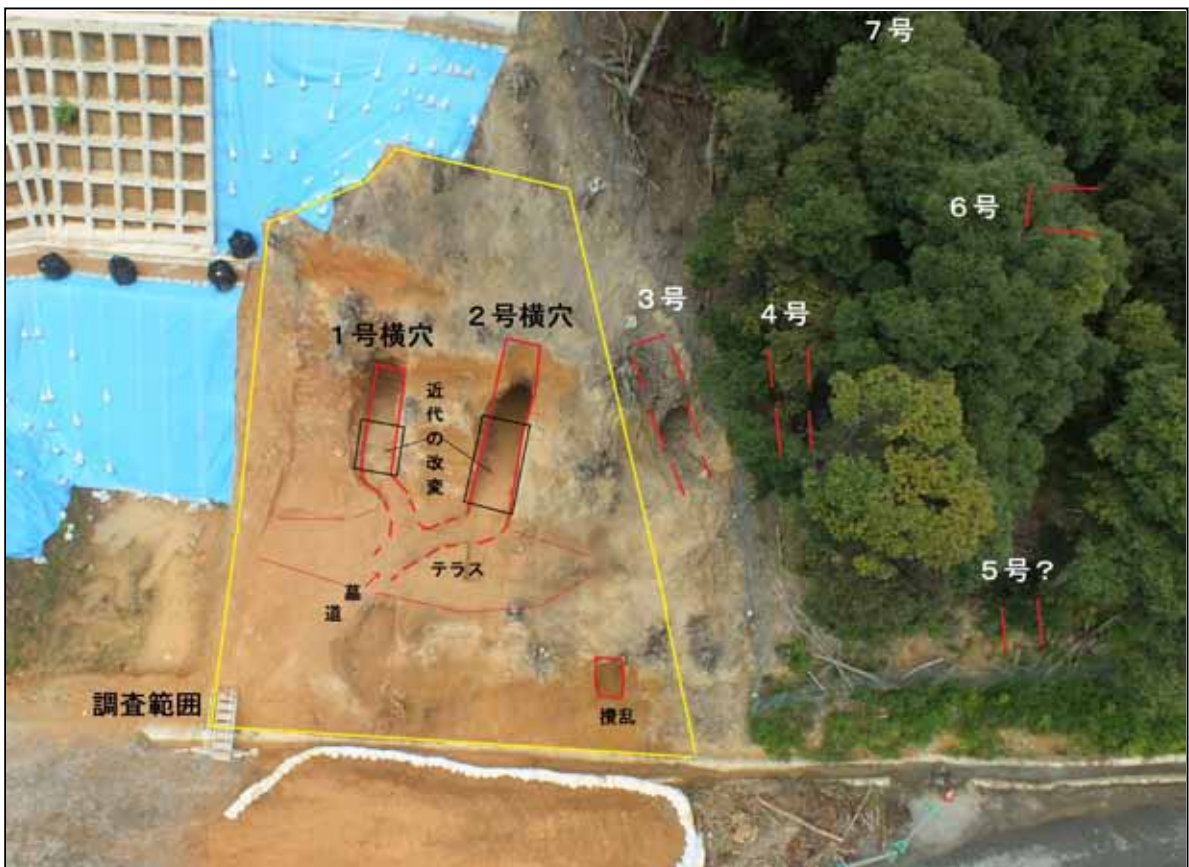


写真3 調査区全景（南東から）